

## 静岡県漁業協同組合連合会

1018 静岡市追手町 9-18

14.11.8 ☎ 054-254-6011

編集・発行 = 指導部漁政課

### 1. 島根県05年度に1県1漁協(島根県漁協)へ

島根県漁連岸会長は、去る10月30日東京のコービルにおいて会見し「水揚の激減、漁家、漁協経営の悪化で県下全漁協から合併を早めようとの声が上がった。漁連、信漁連を包括し、市町村も参加して1県1漁協を構築したい。」と説明し「不退転の決意で実現に努力したい。」と述べました。

同会長は、会見の前日に合併推進協議会を設立し、その中で合併後の組織体制、新規事業などのビジョンを今年度中に作成、04年度に組合員、ブロック説明会や合併総会を開き、早ければ05年4月に発足したいと述べました。

また、合併後は 系統事業のコストを削減し、財務の健全化 既存事業の見直しと新規事業の展開 産地市場を7市場に統合 全水揚施設に海水殺菌装置を設置し、漁獲物に島根県のブランド認定マークをつける J F グループの高品質水産物流通事業の積極推進 広域組合で資源管理とブロックごとの地域特性を生かした資源管理の併用 の5構想を挙げ、具体案は内部検討を重ね今年度中に作成することとしています。

同県の漁協は現在27漁協ありますが、当初県下6拠点漁協を経て06年度に1県1漁協の実現計画でしたが、一気に県漁協発足の実現を図ることにしたものです。

### 2. 水産物の安全確保のあり方検討会開催される

水産庁が設置した「水産物安全確保に係わるあり方検討会」(座長：中村晃二マリノフォーラム21理事長)の会合が、去る10月17日東京で開催され、J F 全漁連など関係者から漁網防汚剤及び酸処理剤の審査体制、貝毒の監視体制等についてヒヤリングを行い、これらについて意見交換を行いました。

漁網防汚剤について、J F 全漁連は有機スズ使用自粛の経緯、代替品対応で設定した自主評価(審査)制度を説明しました。委員からは評価コストなどの質問が出され、J F 全漁連としては「漁網防汚剤については、公的な審査制度がないので生産者が独自に基準を設け安全性の確保を行っているが、本来は国が審査すべきと考える」と回答しました。

酸処理剤については、昭和59年の水産庁次長通達を受け、食品添加物で認められている有機酸使用推進の中で、J F 全漁連・全海苔連が適格性の審査を行っている。全海苔連は「酸処理剤は赤腐れ病対策、高品質のノリ生産に有効で、ノリ養殖には欠かせない資材」と説明しました。

委員からは公的な基準について意見が出され、J F 全漁連と全海苔連は「地域ごとに独自の使用実態があるため、画一的な規制を導入することは適当ではないのではないか」と

述べました。

貝毒の監視体制について、北海道立中央水試の場長が、海域を区分して制度的規制と業界の自主規制で安全性を確保している道内の体制を説明しました。

### 3. 駿河湾深層水本格給水を開始

静岡県では、1年間の試験給水期間を経て、この11月1日より新焼津漁港に整備した駿河湾深層水取水供給施設の本格給水を開始しました。

試験期間中の給水日は、これまで週1日でしたが11月からは週5日体制となり、また駿河湾深層水利用商品の信頼性の確立、類似品との差別化を図るため、深層水利用者協議会を発足させ、ブランドマークをつける取組みも既にスタートさせています。

この海洋深層水は、高知県、富山県、沖縄県、神奈川県(民間)に続くもので、焼津沖の深さ397メートルと687メートルの二層から取水・給水できるようになっており、特に687メートルの海水は他県にない深さからの取水で、年代測定によると、この海水は一千年以上前のものということが、静岡大学の研究グループの調査により明らかにされています。

古い海水は、成分が分解され尽くされていることで安定しているばかりか、深層水は低温安定性、清浄性、高栄養性などの特性を持ち、水産、農業、食品加工、医療、美容、健康、エネルギー、鉱工業、環境など多方面で利活用が期待されています。

県では、水産業のほか各種製造業が高度に発達した東京、名古屋、大阪の大都市に囲まれた恰好の立地にあり、関係者は産業や地域活性化への期待を込め、日本一深さのある駿河湾の深層水の幅広い利活用に意欲を燃やしています。

### 4. 「魚を科学する」平成14年度水産研究発表会開催

県水産試験場及び県栽培漁業センターでは、平成14年度水産研究発表会を来る11月22日(金)に焼津市において開催しますのでお知らせいたします。

開催日時：平成14年11月22日(金)午後1時～4時 開催場所：焼津市・県水産試験場大会議室 発表内容：「人気食材、トンボマグロが増えた理由(わけ)」漁業開発部 増田傑氏 「駿河湾深層水で煮た釜揚げしらす」利用普及部 蔦本淳司氏 「駿河湾深層水主要成分と食品利用における安全性」深層水プロジェクト 五十嵐保正氏 「アワビ放流～多くの稚貝を生き残らせるには～」伊豆分場 伊藤 円氏 「ウナギ種苗生産への挑戦」浜名湖分場 飯沼紀雄氏 「ヤマトイワナの保護・増殖への取組み」富士養鱒場 鈴木進二氏 「さかな、その変態と成長」栽培漁業センター 海野幸雄氏 参加費：無料 申込・問合せ先等：住所、氏名、電話番号、職業を記入し、ハガキまたは F A X で申込 県水産試験場 焼津市小川汐入3690 電話 054-627-1818 F A X 054-627-3084 先着80名

### 5. 諸会議・日程(11月12日(火)～11月25日(月))

11月25日(月) 県遊漁船業協会 = 役員会 (県水産会館)

- 既報分省略 -